

「子ども農業体験活動実践フォーラム2004」の開催について

1. 趣 旨

JA 全中において、「子ども農業体験学習中央推進協議会」(平成 13~14 年度)を設置し、農業関係者、教育関係者をはじめ広く一般に子どもたちの農業体験の取り組み意義について、情報発信を行ってきており、平成 15 年度からは、学識経験者、農業関係者、JA 関係者、教育関係者等からなる「子ども農業体験活動実践研究会」を設置し、モデル事業等の先行事例等、実践活動の成果や課題をふまえながら、今後の取り組み方向について検討を行うこととしている。

今年度のフォーラムにおいては、その成果と位置付けられる事例報告、パネルディスカッション等を行い、子どもたちの農業・農村体験活動について、教育的効果、地域への波及効果を高めるための支援のあり方について、意見交換m情報交換を行うことにより、実践へ向けたステップアップをめざすこととしている。

2. 主催・後援(予定)

主催：子ども農業体験活動実践研究会・全国農業協同組合中央会

後援：農林水産省・文部科学省・教育新聞社・日本農業新聞社・(社)家の光協会・(社)農山漁村文化協会・(株)農協観光、(社)中央酪農会議

3. 時期・会場

2004 年 3 月 3 日(水) 13 時~17 時

東京国際フォーラム(東京・有楽町)

4. 対象

教育関係者、農協(JA)関係者、体験活動受入実践者、支援者など 200 名程度

5. 内容

- 1) 基調講演
- 2) 先行事例報告
- 3) 活動の継続・発展に向けたディスカッション
 - ①子どもたちの体験活動としての側面
 - ②農業・農村振興方策としての側面

子どもたちの農業・農村体験学習推進事業

1 趣旨

国民の農業・農村に対する理解と関心を深めるとともに、都市と農山漁村を双方向で行き交うライフスタイルの実現を図り、次代の農業を担う人材を確保・育成していくためには、子どもの頃から農業・農村に親しみを感じる体験が重要である。

しかしながら、技術や知識・情報の不足、農園確保の困難さ、農村地域の受入体制整備の遅れ、指導者不足等の理由により、農業体験学習を行っている小・中学校は全国で52%にとどまっている。

このため、文部科学省等と連携を図りつつ、子どもたちの農業・農村体験学習等を推進するための体制づくりや条件整備を行うものとする。

2 事業内容

(1) 子ども体験学習中央推進事業

教育・農業関係機関による全国的な推進体制整備、指導マニュアルの作成、シンポジウムの開催等を行う。また、文部科学省と連携して、学校教育におけるモデル地区での体験学習の受け入れを行うとともに、農業体験学習の効果的な進め方を検討する。

(2) 子ども体験学習都道府県推進事業

都道府県における推進体制の整備、副読本の作成、教職員に対する研修、コンクールの開催、体験学習指導者の養成、県内重点地区における体験組織づくり等を実施。

(3) 子ども体験学習地区推進事業

① 地域における推進体制の整備、農業生産を体系的に理解するための事前・事後学習の実施、農業体験の実施や水生動植物の観察等に必要な簡易な施設整備や体験ほ場の確保、体験学習指導者の設置、教育関係者との交流会の開催等。

② 農山漁村部の市町村において、子どもたちの都市農村交流機会の増大を図るため、都市部の教育関係者と連携しつつ、修学旅行や夏休み、週末等を利用した農業・農村体験を行う都市部の小中学生の受入体制を整備。

(4) 子ども体験学習総合支援事業

小・中学校における体験学習に関する調査研究、農業体験学習に役立つ情報のWebサイトでの提供、農業体験学習に協力する指導者の研修等を実施。また、民間の農業研修教育施設を活用し、都市部の小・中学生等に農業体験学習の機会を提供等。

3 事業実施主体 (1)全国農業協同組合中央会

(2)都道府県等

(3)①市町村、土地改良区、農協、特認団体、②市町村等、

(4)民間団体 (社)全国農村青少年教育振興会、(財)農村更正協会
(財)農民教育協会、(社)日本国民高等学校協会

4 事業実施期間 平成15年度～平成16年度

5 補助率 (1)及び(4)定額、(2)及び(3)1/2以内

6 平成15年度予算額 409,076(0)千円

担当部署

農林水産省経営局女性・就農課
育成指導班 多田、黒木
千代田区霞が関1-2-1
03-3502-8111 (代)
(内) 4319、4321



平成15年度

子どもたちに頼られる地域の先生を目指して



農業・農村体験学習 指導者養成講座



主催 社団法人 全国農村青少年教育振興会
後援(予定) 農林水産省, 岩手県, 社団法人岩手県農業公社
全国指導農業士連絡協議会



岩手
会場

平成15年

盛岡つなぎ温泉 ホテル愛真館

10月29日(水) 〒020-0055 岩手県盛岡市繫字塗沢40-4
～31日(金) Tel:019-689-2111

東京
会場

12月 3日(水)
～ 5日(金)

独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
Tel:03-3467-7201(代) Fax:03-3467-7797

子どもたちの感性を引き出し、農業・農村の体験を楽しくさせることができるのは「学校の先生」より「地域の先生」の方が得意です。しかし、地域の先生は、田んぼで赤トンボや蛙が生まれていることや、畦や農道脇の可憐な野草の花や虫たちの姿や、農村の暮らしを体験学習の場として十分生かしていないのではないのでしょうか。田んぼや畑や牛を飼っているところや農村の暮らしの場は、農業体験学習の場として宝の山のようなところですよ。

この研修講座は全国各地で子どもたちに対する農業・農村体験学習を様々な方法で取り組んでいる「いわゆる地域の先生」や地域の先生を目指している方々が「子どもたちに頼られる地域の先生」になるための研修会です。研修を修了された方は教育振興会のリストに登録され、「教育振興会認定の農業・農村体験学習の地域の先生」として名乗ることができます。

全国各地から多くの方々のご参加を頂きますようご案内申し上げます。

❖参加者及び募集人員

岩手会場 60名, 東京会場 60名

地域で農業体験学習の指導、支援、協力をしている者、または、今後しようとしている者

(指導農業士, 女性農業士, 青年農業士, 農業青年クラブ員, 生活研究グループ員, 農林漁業体験
民宿経営者, 農業体験学習を受け入れる農業法人経営者, 市町村〔第3セクター含む〕等の農業体
験学習受入施設関係者, 篤志指導者, PTA・公民館役員, 改良普及員, 農業大学校職員等)

❖参加費: 無料 (テキスト代1,000円及び研修会場までの往復交通費及び宿泊・食事費・情報交換会費は参加者負担)

○岩手会場: 10月29日 宿泊費(夕食・情報交換会費・翌朝食含む) 9,000円

10月30日 昼食代1,000円、宿泊費(夕食・翌朝食含む) 7,000円(予備)

○東京会場: 宿泊費2,150円/1人/1泊, 朝食450円, 昼食590円, 夕食670円, 情報交換会費5,000円
(宿泊は個室になります)

❖申し込み

- 「受講申込書」をFAX(03-3291-5798)によりお送りください。
- ホームページ<http://www.ryeda.or.jp>からもお申し込み可能です。
- 申し込みされた方には、改めて詳しい日程、費用等をお知らせします。

❖申し込み締め切り

○岩手会場: 平成15年10月10日(金) ○東京会場: 平成15年11月15日(土)

講座 内容

第1日	開講式・オリエンテーション	(13:30 ~ 13:50)	
	農業体験学習の推進・・・現状と課題	(13:50 ~ 14:20)	
	農林水産省担当官		
	農業体験学習の教育的ねらいと内容	(14:20 ~ 15:50)	
第2日	東京都子ども会連合会専務理事 小菅 知三氏		
	子どもたちの心のとらえ方～楽しく接するテクニック～	(16:00 ~ 17:30)	
	東京都子ども会連合会専務理事 小菅 知三氏		
	情報交換会	(18:00 ~ 20:00)	
	農業体験と野鳥観察 (希望者)	(6:00 ~ 8:00)	
	(社)全国農業改良普及協会専門委員, (財)日本自然保護協会自然観察指導員 粕谷 和夫氏		
	地元学で食と農の本質が見えてくる	(9:00 ~ 10:30)	
	民俗研究家 結城 登美雄氏		
	農がそこに、いつも、あたりまえになければならないわけ	(10:40 ~ 12:10)	
	農と自然の研究所代表 宇根 豊氏		
第3日	【岩手会場】現地視察・研修(視察先:中川 一氏, 上野 カナエ氏)	(13:10 ~ 17:30)	
	分散会・自らの事例を中心とした情報交換	(19:00 ~ 21:00)	
	【東京会場】分散会・自らの事例を中心とした情報交換	(13:30 ~ 17:00)	
	農業体験と野鳥観察 (希望者)	(6:00 ~ 8:00)	
	(社)全国農業改良普及協会専門委員, (財)日本自然保護協会自然観察指導員 粕谷 和夫氏		
	先進事例研究(3事例)	(9:00 ~ 11:30)	
	コーディネーター 岩手会場:岩手大学教育学部助教授 佐藤 幸也氏		
	東京会場:農と自然の研究所代表 宇根 豊氏		
	閉講式(アンケート回答含む)	(11:30 ~ 12:00)	
	※都合により内容の一部・日程を変更することがございます。		

講師



東京都子ども会連合会専務理事 小菅 知三氏

■主な活動内容

昭和63年8月より、東京都内の小・中・高校生約200名を北海道帯広市の農家ファームステイに派遣する事業の企画・運営を担当。
 ・都市と農村の青少年交流事業等、現在まで継続実施
 ・本年度「子ども夢基金」の助成を受け、田舎の良さを知るキャンプ「都会っ子ふるさと体験村」(長野県飯山市)を企画、運営を実施。



民俗研究家 結城 登美雄氏

■主な活動内容

東北の中山間地域を中心に、住民と一緒にフィールドワークし、地域資源とその多様な活用を土台に地域づくりを行っている。これは「地元学」といわれるものであるが、近年は食文化をテーマにした地元学を進めている。



農と自然の研究所代表 宇根 豊氏

■主な活動内容

百姓が田んぼで仕事をする。その同じ仕事から、同じ田んぼで、同じ時期に、米だけでなく、赤トンボやメダカやカエルが育つ。それは、とても大切なことなのに、無視してしまった精神を、どう変えるかを研究しています。



(社)全国農業改良普及協会専門委員, (財)日本自然保護協会自然観察指導員 粕谷 和夫氏

■主な活動内容

・野鳥観察・保護 日本野鳥の会(会員暦24年)、八王子・日野カワセミ会会長、東京都知事委嘱鳥獣生息調査員、財団法人日本自然保護協会自然観察指導員、地元小学校における野鳥観察指導講師

現地視察・研修(岩手会場)

視察先:岩手県雫石町・水稲, 和牛, 民宿中川 一氏, 岩手県滝沢村・りんご上野 カナエ氏
 現地研修解説者:岩手大学教育学部助教授 佐藤 幸也氏

先進事例研究

コーディネーター [岩手] 岩手大学教育学部助教授 佐藤 幸也氏 [東京] 農と自然の研究所代表 宇根 豊氏
 パネリスト

- [岩手] 青森県・酪農安原 栄蔵氏, 秋田県田沢湖ふるさとふれあい協議会会長 田口 久義氏
- 岩手県西和賀農協常務理事 高橋 弘氏
- [東京] 埼玉県榎本牧場代表 榎本 求氏, 全国指導農業士連絡協議会会長 香取 鐵也氏
- 愛知県福津農園園主 松沢 政満氏

問い合わせ先

社団法人 全国農村青少年教育振興会 業務部

〒101-0048 東京都千代田区神田司町2丁目1番地 神田中央ビル3階

TEL 03(3291)5727

FAX 03(3291)5798

URL <http://www.ryeda.or.jp/>

E-mail ssein@coral.ocn.ne.jp

社団法人全国農村青少年教育振興会は、農村青少年の農業に関する知識や技術の研修などの活動や、農業体験学習の活動を支援し、また農業を志向する方々を対象に、「就農準備校」の運営を行っている農林水産省認可の団体です。